

## 家政系短大における教育に関する研究 (第4報)

## 全国家政系短大のカリキュラム上の特徴

目白学園短大・遠藤美緒理、中島明子、東京家政大 石保鈴子、大樽大 大森正司、岡本順子、東大 加藤おゆり  
 中京短大 川島美保、英女子短大 田中直義、日本大 湯本貞子、西田寿美

目的 日本における全大学数の中でも家政系短大の占める割合は高く、又、その中で並び、教育されるのは殆んどが女子学生である。数年後に出て来る18才人口の急減期を前に、短大協会を中心にして短大教育の質的向上の取り組み、各短大におけるカリキュラムを初めとする様々な内部努力等が実り、いろいろの面で変化、又、それにふさわしいカリキュラムの作成されつつあるのが現状である。今回は全国家政系短大のカリキュラムについて、情報学的手法で解析し、知見を得たので報告する。

方法 各短大のカリキュラムをコースごとに転記し、学科目コード表によりインデクシング、マーク、集計した。全国的平均値の他に、各地域上の特色、市部、郡部の別等についても検討した。

## 結果

- ①各コースごとの学科目は、40教科前後が最も多く認められた。
- ②全国的にみた場合、細項目レベルでは、栄養学、道徳、住居学、教育心理学、育児学等が出現度数の高い教科であった。
- ③市部、郡部別の比較では、食品学、栄養学等は出現度数が高く、差が認められなかったが、福祉、文化関係では違いが見られた。また、地域別においても同様に、例示科目等はそれぞれの地域にも多く認められた。